

自治体名	山梨県富士河口湖町
------	-----------

女性の健康づくり対策の概要

- 「新フロンティア戦略」において「女性の健康力」が位置づけられ、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすには、生活の場（家庭・地域・職域・学校）を通じて女性のさまざまな健康問題を女性自身が理解し、また、社会全体で総合的に支援することが重要だと提示された。
- 平成20年度乳がん検診の結果から平成21年度子育て支援として「女性特有のガン検診推進事業」において子宮頸がん・乳がん検診にて検診無料クーポン券送付し女性特有のガン検診の受診促進を図ると共にがんの早期発見と正しい健康意識の普及及び啓発を図り女性の健康保持増進を図ることとした。
- 健康づくり関係組織（食生活改善推進委員会・愛育会）の活動展開には、まずは自分たち女性の体の仕組みを学び、その知識を住民に広げ地域で活動することが大切で樓。女性団体が自ら意欲的に向上心を持ち活動することがつことが、女性の健康づくりの基本と考えている。

自治体の特徴

平成15年11月、足和田村・勝山村・河口湖町が合併、その後平成18年3月に、上九一色村と合併し、広域な富士河口湖町が誕生しました。当町は富士北麓に位置し4つの湖と青木が原樹海等自然に恵まれた国際観光地であり、河口湖周辺に人口が集中しています。平成21年度は人口約26000人で合併当時と比べるとわずかながら増加しています。（年少人口11.8%・老人人口32.4%と少子高齢化傾向）

人口構成 (H21.○.○現在)

	総数	男	女
人	25861	12720	13141
割合(%)	100	49.2	50.8

15歳未満	3862	2020	1842
15～64歳	16929	8477	8452
65歳以上	2710	1276	1434
75歳以上	1955	824	1131
85歳以上	405	123	282

女性に関する健康課題

1. 平成20年度に行われた乳がん検診・子宮がん検診受診率は下記のように低い。
 - (ア) 乳がん検診 対象者 2992人 受診者 885人 (29.6%)
 - (イ) 子宮がん検診 対象者 4065 受診者 494人 (12.1%)
2. 特定健診の結果からは、更年期の関係から生活習慣病である肥満・高脂血症などが多い。また、本人は運動不足と思っているが生活習慣に取り組めていない現状がある。
3. 妊婦相談からは、妊婦の喫煙及び家族内での受動喫煙が半数以上である。妊娠以前に喫煙した経験者も多い。

事業費 (千円)

- | | |
|-------------------------|------|
| (1) 女性の健康づくりに関する事業 (総額) | 10.8 |
| (2) 報告事業 (再掲) | |

事業名	女性の健康週間 in 富士河口湖				
分野	<input type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康手帳の交付	<input type="checkbox"/> 健康相談	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の普及	<input checked="" type="checkbox"/> 啓発普及
事業費（千円）	10.8				

事業目的

○女性が生涯いつまでも輝き続けることが健康の原点である。すなわち「美しく・健康に生活を送り続ける」ことを目指し、女性の身体と病気の正しい知識（乳がんや子宮頸がん）と予防についての情報提供する機会とする。

1. これからの「美しく・健康に生活を送り続ける」方法がわかる。
 - ・ 女性ホルモンと女性の体・こころについて
 - ・ 乳がん・子宮がんの病識と予防方法について
2. 自分にあった「美しく・健康に生活を送り続ける」方法が実践できる。
3. 地域での組織活動において女性の健康を話題として展開できる。（乳がん検診受診勧奨への声かけ）

事業対象

町民 30 歳以上の女性（女性団体連絡協議会会員を含む）

事業実施体制・展開

- ① 庁内の女性団体事務局である事務局へ本事業の目的・趣旨について説明し協働事業を提案する。
- ② 当町の女性連絡協議会事務局とに、本事業の目的・趣旨について事前に団体の長を通じて周知し、協力依頼する。
- ③ 乳がん検診受診勧奨ために女性組織が地域での健診の声かけ活動する。全地区ヘチラシの回覧にて周知する。
- ④ 講演「美しく・健康の生活する。乳がん・子宮がん検診から始めよう」の講師は、山梨まんくらぶ代表 若尾直子氏に依頼する。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 参加者へのアンケート調査
 - ・ 乳がん子宮がんについて理解できた（54/58人）
 - ・ 乳がん子宮がん検診の必要性を理解できた（56/58人）
 - ・ 自分の生活改善の方法がわかる（31/58人）
- ② 乳がん検診受診者（130人）

生活改善方法を女性団体が中心となって地域で活動展開につながった。

事業の工夫点

- ・ 乳がん検診同時開催
- ・ 女性団体連絡協議会との連携
- ・ 地域への「女性の健康」に対する声かけ活動（意識付け）

事業の効果についての評価・考察

- ① 当町の女性のがん検診の受診率は乳がん検診（29.6%）子宮がん検診（12.1%）であり、これまで、個別通知や広報誌等により検診受診勧奨を実施してきたが、受診率は横ばいの状態であった。今回、地域の組織団体が地域で声かけ活動し乳がんの知識の普及を図ったことで受診者130人と38.4%と向上した。
- ② 今後は組織への支援を継続し実施していくことで地域住民により身近住民組織による啓発活動が期待でき、検診の受診率向上についての効果が期待できる。（下記の評価将来性、信頼度、効果度参照）

今後の課題

- ・ 女性団体連絡協議会会員が中心となってしまい、参加者が高齢化傾向であった。
- ・ 30～40歳への啓発活動・受診勧奨等の取り組み

ホームページ	
照会先	山梨県 富士河口湖町 健康増進課 健康増進係 0555-72-6037

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	3	参加者100人、女性団体の地域への声かけの効果はあった。
②独創性	2	庁舎内の協働事業、関係団体の地区活動への展開
③普遍性	2	協働への取組ができた。
④将来性	3	女性の健康門対別の取り組みの検討。
⑤効果度	4	地域活動につながる女性の健康問題へのきづきがあった。
⑥信頼度	3	女性団体参加者の平均年齢が高い

